

# 中部地区 公民館だより

第179号

令和8年1月7日発行  
上山市中部地区公民館  
上山市十日町4番11号  
TEL 673-2588  
FAX 673-0379

## 新年のご挨拶

中部地区の皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申しあげます。旧年中は、公民館運営や事業などにご理解とご協力をいただき、感謝申しあげます。令和8年も多くの方から公民館に足を運んでいただけるよう、職員一同努力して参りますので、変わらぬご支援ご協力をお願い申しあげます。皆様のご健康とご多幸を祈念し、新年の挨拶といたします。

中部地区公民館 職員一同

## オカリナの音色に癒やされて

12月12日(金)、公民館主催の令和7年度演奏会②が開催されました。当公民館を練習会場にしている団体の方に依頼し、多目的ホールを会場に演奏会を開催するもので、今年は3年目でオカリナ愛好会の方にお願いしました。この演奏会を毎年心待ちにしている方もいらっしゃるようで、「今年は何すんのや?」と問合せもありました。オカリナという楽器は知っているが、実際に聴くのは初めての方も多く、「楽しみにして来た」「オカリナの音色って癒される。音楽は心を豊かにするよね」など期待しながら演奏会が始まりました。



## 演奏会

オカリナ愛好会  
そよ風  
ラブフラワー



今回は2つのグループの合同演奏会のため、合同での演奏とグループごとの演奏を含め、17曲を演奏していただきました。耳馴染みの曲が多く、演奏前には曲の紹介があり、クイズや軽やかなトークで和やかに進行していただきました。曲によっては振付けもあり、サンタの帽子をかぶってクリスマスの雰囲気たっぷりでの演奏など、趣向を凝らした内容で楽しませていただきました。あっという間に時間が過ぎ、「もっと聴いてみたい」と思いながらエンディングとなり、アンコールの声にも快く答えていただき、素敵な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

# 上山ふるさとふれあいフェスティバル



11月19日(水)、中部地区公民館、北部地区公民館主催の「上山ふるさとふれあいフェスティバル」が開催されました。

上山小学校の1年生と学区内の高齢者や祖父母と一緒に、スリッパ飛ばしやあやとりなど約10種類の懐かしい昔遊びをしました。

「自分の孫と遊んでいるようで楽しかった」「たくさん元気をもらって、明日からまた元気に過ごせそう」など、たくさんの感想をいただきました。

## はこべの会 お料理教室

12月3日(水)、郷土料理研究家の鈴木ウメ子さんを講師に迎え、「旬の野菜をつかった根菜料理教室」を開催しました。

たたきカツオの納豆かけ・豆腐団子のもち風・大根炒り・サツマイモ入りご飯・団子入り雑煮風など5種類の料理を作りました。

料理が終わったら、試食の時間です。食事をしながら材料の切り方、味付けのポイントなどを聞いて会員の皆さんには自宅でもつくってみるとはりきっていました。

特に豆腐団子のもち風が大好評でした。



## はこべの会サロン(クリスマスパーティー)



12月17日(水)、はこべの会サロンのクリスマスパーティーが開催されました。

会員の布川さんのハーモニカ演奏とおいしいランチでとても楽しい時間でした。

# 出前スポーツ教室（ミニフットゴルフ）

12月5日（金）、多目的ホールにて出前スポーツ教室 ミニフットゴルフを開催しました。

外は寒く、上着を着てゲームをしている参加者がいましたが、動いているうちに上着を脱ぐほど体が温まったようでした。

片足でボールを蹴ったりするので、最初は心配でしたが心配する必要はなく、皆さん元気に歓声をあげながらゲームを楽しんでいました。



## 参加者募集

### 健康講座

#### 高齢者の頻尿、夜間頻尿

日 時	令和8年1月21日(水)
午前10時から午前11時30分	
場 所	中部地区公民館 多目的ホール
講 師	山形大学医学部 腎泌尿器科学講座 助教 八木 真由様
対 象	中部地区管内在住の方
参 加 費	無料
持 ち 物	必要な方は飲み物
申込締切	令和8年1月19日(月)



### ケーキ作り教室

日 時	令和8年2月14日(土)
午後1時から午後3時	
場 所	中部地区公民館 調理室
講 師	果樹工房 YOSHIDA 吉田安俊さん
対 象	中部地区管内在住の方 上山小学校の児童と家族
募 集	8組程度(定員になり次第締め切ります)
参 加 費	1,500円
持 ち 物	エプロン・三角巾・マスク着用
申込締切	令和8年2月6日(金)



### 1月の予定

- 9日(金) 出前スポーツ教室(カローリング)
- 16日(金) はこべの会 学習会⑦(歌の教室)
- 21日(水) 健康講座  
はこべの会 サロン
- 29日(木) 救命救急講習会  
薬物乱用防止講習会

### 1月の百歳体操

3、15、22、29日

### 救命救急講習会

#### もしもの時、命を守る 大切な講習会です

日 時	令和8年1月29日(木)
午前10時から午前11時30分	
場 所	中部地区公民館 多目的ホール
講 師	上山市消防職員
対 象	中部地区管内地区会長 および中部地区管内在住の方
参 加 費	無料
持 ち 物	必要な方は飲み物
申込締切	令和8年1月26日(月)



### 薬物乱用防止講習会

救命救急講習会が終了後「薬物乱用・防止」の講習会を午前11時30分から正午まで行います。

場 所	中部地区公民館 多目的ホール
講 師	薬物乱用防止指導員 佐々木 壽さん
対 象	中部地区管内地区会長 および中部地区管内在住の方

注意

### はこべの会 サロン

#### 1月のサロンは茶話会

公民館事業の健康講座が終わって  
から開催します

日 時	1月21日(水)午前11時30分頃
場 所	中部地区公民館 会議室3・4
費 用	無料

# 地域の宝再発見

NO.110

みまさか

## 藤井松平氏シリーズ6. 松平信行(4) 上山藩の支領(村山、美作、長岡)

上山藩の支領替えについて紹介します。

文化10年(1813)には上山藩の3万石の年貢は減少しづけ、年貢納米は落ち込み藩財政は先物年貢が抵当に入りました。家臣の俸禄半減ばかりでなく農民自体が「百姓相立ち申さず候」の酷さです。家督を継いだ信行侯は豪農からの借米利息が25%のうち5%を自らの懐から貸主に返済し、家臣を感激させました。そして、信行侯は文化10年(1813)に自らの出生地「美作国」に永代の願いの支領替えを上訴し認められます。

出羽国内の収納米は、酒田港から北廻船で大坂に廻されて換金されましたが、最上川船下しで経費(座礁・運送料の高騰)がかかり、現在の中郷〔山形：中野・鮒洗・内表村〕、下郷〔寒河江・河北町：小泉・田井・溝延・新田・箕輪村〕計1万3千石分を、経費節減として石州美作(現岡山県津山市地域)支領が実現したのです。当時の信行侯出身の美作津山藩は、元禄10年(1697)に前の津山藩主森衆利の死去で収公され、新しい津山藩松平信富領10万石と、代官支配(天領)地になりましたが、津山松平二代浅五郎が11才で死去したために藩は5万石に減封されます。津山五代が松平康哉で信行侯はその五男でした。津山松平家とは遠縁で上山松平三代信将侯の繼室が津山初代信富の娘で両松平家の縁もあり、大坂加番で斃れた上山六代信宝の後を美作松平康哉の五男信行を宛がわれ、その縁で美作の故地を手引きしてもらったと考えられます。

その美作支領は、津山(鶴山)城の南方(久米南条郡三ヶ村、久米北条上郡十九ヶ村)、東方(勝北郡十ヶ村)の計三十二ヶ村1万2567石です。久米郡、勝北郡の間に吉井川が流れ高瀬舟舟運が行われていました。大坂に近くよい支領替えでしたが、しかし、出羽中・下郷支領ハケ村だったのに対し、美作支領は遠国飛地で三十二ヶ村ですから陣屋は別な苦労があったでしょう。

支領について、さらの脇から深入りせざるを得ませんが、徳川11代將軍家斉は妻妾16人、子孫53人がいました。その十五男が美作藩松平斉孝の養嗣子として迎えられて、文化14年(1817、文政元年)に減らされていた藩領が10万石に復されることになりました。上山藩の美作支領は

津山松平藩隣の幕領(天領)地で、その代官支配地が美作藩領に復し、上山藩美作支領は収公されて新たな越後長岡の幕領地への変更になったのです。

越後長岡藩は老中牧野忠精の藩領でしたが、長岡の替地は藩主牧野氏が預かる天領地で三島郡二十一ヶ村、刈羽郡二十一ヶ村、石高は計1万3963石余です。上山藩は実石高が向上しました。

さて、支領が長岡に替わった後のことですが、天保四年(1833)「天保大飢饉」が発生、出羽国は甚大な被害がでましたが、支領からの給米で上山藩は救われました。信行侯の支領替え策が多く命を救ったのです。長岡支領の米は「越後分領より1万3800俵を酒田廻して上山に給米」、天保5年(1834)「越後より酒田へ3月7日頃初舟着、29日舟町着、毎日四百二十七俵当所へ参り、辰九つ前に御城糀堂へ入らせ候」。越後を2月下旬に出て、酒田港から3月7日にひらた舟で最上川を遡上、3月29日に船町に着き、一番舟分は馬二百疋で城糀堂に納め、後には小舟で藩庁糀倉に納めた。7月10日に越後廻米は1万4千俵残らず相成り大慶」。さらに「積み荷米を薬師庵の裡にあげ諸民を救う。人別割符で一人米二合づつその日毎に町会所で売り下げ。有志は最寄りに安米を出し、粥を煮て施してこの困苦を救いしことなり」と記録されています。

廻米を差配した國家老渡辺五郎右衛門はこの偉業を俳句に詠みました。「霞む日や真野の入江の船からり 素涼(俳号)」。前川を遡上した小舟の風景が万感胸に迫りました。

今、私たちが長岡を訪問すると、明新館支館を設け子供を学ばせてくれたことにお礼を言われます。しかし、上山の方こそありがとうございます。名君信行侯がいたからだと思います。信行侯は所与の条件を打破し課題を改善した藩主だったと思うのです。

なお、この詳細について郷土史研究会「上山の郷土」(20号、R8春発行)に掲載予です。

※参考文献：「市史」、市史資料「御傳記」①、「見聞隨筆」⑫、「越後誌」⑬、「津山市史」、「近世非領国地域の民衆運動と郡中議定」(青木美智男著)、村上直論文「天領の成立と代官の位置」「江戸幕府直轄領の地域的分割」、「湯の上観音奉納俳句」、「老中一覧」、「大坂加番一覧」、「三方領知替え」など。